

# Flute Recital

Melodies in my memory

フルート 織田 茂伸

ピアノ 大石英津子

2017年11月12日(日) 開演14:00  
静岡県総合健康センターホール

後援 静岡県フルート協会  
応援 沼津フルートアンサンブル  
静岡県立沼津東高等学校吹奏楽部OB会  
協賛 有限会社 サンエス電装

## ごあいさつ

本日はお忙しい中、私のわがままなコンサートにお越し頂き、誠にありがとうございます。フルートを吹き始めて47年。フルートを通じて、たくさんの方々、そして多くの曲と巡り会ってきました。本日は、その節目節目で出会った思い出の曲を、とりとめのないトークを交えて演奏していきたいと思います。

60歳にもなると、技術的には昔出来ていたことがなかなか出来なくなります。ですが、それと同時に、昔出来なかった表現が出来るようになってることに気がつきます。

本日は、ピアノの大石と共に、多分ふたり合わせて120年以上の歴史の奥行きが感じられるコンサートを、皆様と共有したいと思います。どうぞ、細かいミスには耳をふさぎ、見苦しい立ち居振る舞いには目をつむり、最後まで温かく見守って頂けますようお願い申し上げます。

織田茂伸

### フルート：織田茂伸

沼津市在住 静岡市出身 実年齢60歳（還暦）

中学から独学でフルートを始め、45歳で仲戸川智隆氏に師事

第8回静岡県フルートコンクール一般Aの部敢闘賞受賞

第9回静岡県フルートコンクール一般Bの部入賞

2007年10月 沼津千本プラザにて念願の50歳記念リサイタル

第11回静岡県フルートコンクールグランプリ受賞

静岡県フルート協会理事

沼津フルートアンサンブル事務局



### ピアノ：大石英津子

東京都出身 沼津市在住 血管年齢38歳（実年齢不詳）

桐朋学園大学短期大学部音楽科ピアノ専攻卒

ヤマハ音楽教室幼児科ジュニア科システム講師を経て、

自宅教室にてピアノ個人指導を続ける。

沼津フルートアンサンブル団員

趣味：ピアノ・フルート・太極拳



# プログラム

## 第1部

アヴェ・マリア	バッハ-グノー
ソナタ 二短調	マルチェロ
コンクールのための小品	フォーレ
ヴェニスの謝肉祭	ブリチアルディ

————— 休憩 —————

## 第2部

Wait There	イルマ
ラテンから	フォール
ソナタ 2楽章	プーランク
メロディと終曲	ノブロ



## プログラム曲への思い

### アヴェ・マリア

長男（当時6歳）と一緒に初めてステージで共演した曲。と・・・

### ソナタ二短調／マルチェロ

私がフルートをやめたいと思った時、手をさしのべてくれた方との出会い

### コンクールのための小品

この曲のレッスン中、レッスンが中断してしまった初めての経験

### ヴェニスの謝肉祭

華やかな曲に憧れと、あるフルーティストに魅了され、挑み続けた曲

### Wait There

YouTube でたまたま出会い、1000 回以上聴き、30 回は涙した曲

### ラテンから

CDを聴き、格好良さに憧れ、真似をしたあるフルーティストへの思い

### ソナタ2楽章／プーランク

今回のリサイタルでこの曲を演奏する意味と、あるピアニストへの思い

### メロディと終曲

一度は本番で演奏してみたいと思った憧れの曲と、新曲への挑戦

## リサイタルに寄せて

### 仲戸川智隆（常葉大学短期大学部 准教授）

俗に「玄人はだし」という慣用語がある。この言葉を目にするたびに、イメージするのは織田さんだ。「玄人はだし」の意味は、簡単に説明すると、玄人がはだして逃げ出すくらい、技術や知識が豊富な素人のことを指し示す言葉だ。普段、織田さんは本業に朝晩問わず打ち込んでいて、ほとんどフルートに触れる時間もない。しかし、その技術の高さは、折り紙付きであり、それは先生としての私のひいき目ではない。音大生・プロと共に受験したコンクールで優勝した実績からも明らかだ。本当の「天才」とはこのような方のことをいうのではないか、と思うこともしばしばである。ただ、コンクールの後は肩書が重荷になってか、フルートを楽しめないこともあったと本人からも聞いている。普通は実績を上げる前にプレッシャーを感じるものだが、その点もまさに「玄人はだし」である。今日の演奏会では、プレッシャーから解放されてのびのびと楽しむ姿を披露できることを心より願う。

### 柳沢智郷（株式会社 アトリエ ヤナギサワ代表）

2回目のフルートリサイタルの開催、おめでとうございます。織田茂伸さんとは、ちょうど20年お付き合いをさせていただいております。そして彼は、私の造りました象牙の歌口頭部管の最初のお客様です。同時に金属製のフルートに象牙を使用して、グレードアップさせる可能性にチャレンジさせる、火付け役なのです。

本日お吹きになる銀管に取り付けた象牙リップ第1号機は、18年半お使いくださっております。以来かなりの本数の同型の頭部管を造らせていただきましたが、その基本型となるものは、この織田さんの頭部管なのです。

彼とお付き合いされている方は皆さんお分かりでしょうが、彼の音はとにかく良い音！その一言につきます。私はフルート製作の世界に身をおいて20年になりますが、プロ、アマ通じてこれだけ良い音を奏でる方は、滅多にお目にかかれないのです。これは彼の魂が綺麗なのでしょう！本日の演奏もその魂の響きが、私達を釘付けにしてくださることでしょう。

このリサイタルの再演が近い将来、実現されることを切に願っております！

### 茅原初子（株式会社 かやはら取締役会長（音楽事業部））

#### アレクサンダー・テクニークSTAT公認教師

本日は還暦リサイタル誠におめでとうございます。50歳のリサイタルの時に還暦になったらまたやるんだって周りではやし立てたのが実現しましたね。素晴らしい！さすが織田ちゃんです。人生をそしてフルートを目いっぱい楽しんでいていいですねえ。

趣味でここまでやれるってすごいです。それにしても本業の仕事でいつも忙しくしているのに、いつの間に練習しているんだろう？静岡県フルート協会のコンクールでは音大生、音大卒業生を抜いてのグランプリでしたね。あの時は本当に感激で涙が出ました。音楽は演奏をしている人の人となり全て出てしまいましたが、優しい音色、温かい音楽、聴く人を引き付ける説得力、全てが備わった素晴らしい織田ちゃん。今日も素晴らしい演奏を聴かせて頂ける事と期待しています。頑張らずにがんばってください。